

## 予算審査特別委員会

(討論の一部抜粋)

## ■議案第4号 平成30年度大田原市一般会計予算について

反対

本澤 節子 議員

私は歳入面を問題とします。歳入規模の精査が足りない、補助事業の活用ばかりで、市民の将来税負担が増加し、今年を境に非常に危険になると考えております。市民生活を守る立場から、平成30年度大田原市一般会計予算の反対を表明します。

賛成

小池 利雄 議員

平成30年度大田原市一般会計予算は、将来を見据えた大規模建設事業のピークであると同時に、持続可能な財政運営に向けての転換期のスタートの年と位置付けされ、限られた財源を重点的・効率的に配分したメリハリのある予算であると感じています。今後も行財政改革による財政の健全化を進め、市民の負託に応えられるよう要望いたします。

## ●議案第5号 平成30年度大田原市国民健康保険事業費特別会計予算について

反対

秋山 幸子 議員

今回の国保広域化新制度を目前に、国保の財政安定化を見て取ることが出来ません。今後、市は、滞納の早期解消や滞納世帯が抱える事情の丁寧な把握などに取り組む、職員の育成に努めることを指摘し、本議案に反対とします。

賛成

小池 利雄 議員

平成30年度からは国保の制度改革が実施され、都道府県が財政運営の責任主体を担い、国保制度の安定化と効率的な事業実施が行われます。この制度改革により、市の予算は前年度と比較し、21.2パーセント減の大幅な減額予算となりました。今後も、医療費の動向等にも細かく留意しながら、健全財政の維持に努められるよう要望いたします。

## ●議案第6号 平成30年度大田原市下水道事業特別会計予算について

反対

本澤 節子 議員

平成30年度大田原市下水道事業特別会計予算に反対します。1つ目に平成29年度末までの下水道計画は確実に終了しなくては住民の行政不信を増大させるものでありますが、大丈夫でしょうか。2つ目に下水道料金が高い、施設、設備管理は十分でしょうか。3つ目に災害時の対策は十分でしょうか。4つ目は予算枠が少ないのではないのでしょうか。

賛成

小池 利雄 議員

下水道事業は、安全で快適な生活環境への改善と、豊かな自然環境を保全するために必要不可欠な事業です。また、生活環境の改善等に期待を寄せる多くの市民から、積極的な事業の推進を強く要望されている事業であり、市内全域で水洗化が図られるように、経営健全化にも十分配慮した下水道事業を要望いたします。

## ●議案第8号 平成30年度大田原市介護保険特別会計予算について

反対

秋山 幸子 議員

支出の地域支援事業費886万6千円、2.8%増の3億2千333万4千円は、在宅医療・介護連携推進事業とあるが、入院から在宅へ、病床削減の受け皿につながりかねない。介護保険料の引き上げは、低所得世帯には苛酷であり「所得が低い層ほど要介護・要支援の出現率が高くなる」との調査結果も出ている。市民の介護保険制度への実態から出発した予算編成を求め反対とします。

賛成

小池 利雄 議員

介護保険事業は、大田原市の要介護認定者数は、第1号被保険者65歳以上の人口に対する認定率は、18.2%の3634人となっており、認定率は、昨年に引き続き県内でも第1位という状況にあります。このため介護保険事業における保険給付費総額は、年々増加しております。そのような中、本市の介護サービスの利用状況と照らし合わせますと、各経費の内容は実績等に沿った適切な予算措置がなされており、妥当な予算であると評価します。

## ●議案第10号 平成30年度大田原市後期高齢者医療特別会計予算について

反対

秋山 幸子 議員

歳入総額6億9120万円のうち、主だったものは、後期高齢者医療保険料と繰入金で、支出の98.45%を占める6億8048万円は後期高齢者医療広域連合納付金です。後期高齢者医療制度は「広域事業」となっており、後期高齢者の医療実態が見えず、75歳以上の高齢者の診療抑制にもつながりかねない、後期高齢者医療制度の廃止も求め、本議案に反対とします。

賛成

小池 利雄 議員

後期高齢者医療制度は、栃木県後期高齢者医療広域連合が保険者である制度ですが、保険料の賦課徴収に係る業務は、法律に定められた市の責務であります。本会計は適切な予算であると評価するものであり、今後も引き続き、高齢者が安心して医療を受けられるよう、適正な保険料の賦課徴収を要望します。